

大曲輪貝塚って どんな遺跡？

肉や魚を煮炊きする道具として土器が発明された縄文時代の遺跡です。

名古屋グランパスのホームスタジアムでもある瑞穂公園陸上競技場の西側にあり、貝塚や住居跡、墓の跡などがみついています。



大曲輪貝塚

およそ80年前の昭和14年に発見され、昭和16年に縄文時代の遺跡として東海地方で初めて国の史跡になりました。

1万年以上続いた縄文時代のなかで、この場所では人びとが生活していたことがよくわかる時期は、縄文時代前期と後期・晩期です。

縄文時代前期は、温暖化により海水面が高く、海が近くまでおよんでいました。そこでとられた貝の貝殻が同じ場所にまわって捨てられ、貝塚が形づくられました。



大曲輪貝塚は 何がすごい？

貝塚が**良好な状態**で保存されている！

大量の貝殻と、魚・シカ・イノシシの骨などを含む貝塚には、縄文時代の漁労と狩猟、食生活をときあかす多くの情報が残されています。



貝塚の貝層

縄文人が使った土器・石器などが**大量**に出土！

貝塚、住居跡、出土品から、生活の場として繰り返し利用されたことがわかります。人びとがくらすのに良い場所だったのでしょ。



縄文土器

石器(石匙)

土偶から推定される**特別なムラ**の可能性

縄文時代前期の土偶が東海地方で唯一みついています。また、後期から晩期の土偶が尾張地方で最も多く出土しています。祈りの道具である土偶を積極的に受け入れる先進的なムラだったのかもしれませんが。



前期の土偶

後期の土偶

縄文時代の 人と犬の関係とは？

埋葬された縄文人の骨がみつかっています。骨の分析から、身長約162cmのがっちりとした大人の男性とわかりました。

この人骨の胸のあたりで、1頭の犬の骨が出土しています。亡くなった男性と一緒に埋葬されたのかもしれませんが。

縄文時代、犬は獵犬として活躍しました。お墓の様子から、人が犬を大事にしていたことがわかります。



縄文人の人骨(晩期)



大曲輪貝塚の史跡整備を計画！

令和8年度のアジア競技大会に向けた瑞穂公園陸上競技場の改築工事(令和3年度～予定)にあわせ、出土品の展示場所を設けるなどの史跡整備を予定しています。史跡の価値や魅力を皆さんにわかりやすく伝え、史跡を身近に感じてもらえるように計画を進めています。ご期待ください！

★陸上競技場の工事期間中、大曲輪貝塚の見学はできません。